

接 続 検 討 申 込 書

電力広域的運営推進機関
or 電力株式会社

御中

経済産業大臣から一般送配電事業の許可を受けている特定系統連系希望者
又は一般送配電事業者が親子法人等である系統連系希望者で特定発電設備
等の申込みは、「電力広域的運営推進機関」となります。電気事業法等の関係法令、政省令その他ガイドライン、電力広域的運営推進機関の送配電等業務指針及び関係する一般送配
電事業者の約款・要綱等を承認の上、以下のとおり接続検討を申し込みます。

代表者氏名

住 所 〒 県 市 町 番地

(フリガナ) (株式会社)
事 業 者 名 株式会社

申 込 者 氏 名

印

(1) 発電設備等設置者名 (フリガナ) (仮称可)	(△△△) 発電株式会社
一般送配電事業者の親子法人等 該当有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
(2) 発電者の名称 (フリガナ) (発電所名、仮称可)	(△△△) 発電株式会社 発電所(仮称)
(3) 発電設備等設置場所	県 市 町 番地
(4) 連系先一般送配電事業者	電力株式会社
(5) 既設アクセス設備※ ¹ の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
※1: アクセス設備: 発電設備等を送電系統に連系するための流通設備	
(6) 発電設備等変更の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 有 [増設 ・ 減設 ・ 更新 ・ 廃止 ・ その他 ()] <input type="checkbox"/> 無
有を選択された場合、□内の該当 項目に○をご記入下さい。	<input checked="" type="checkbox"/> 連系先となる一般送配電事業者たる法人の小売部門と受給契約を締結予定 <input type="checkbox"/> 上記以外の小売電気事業者と受給契約を締結予定 (連系線利用(予定) 有 ・ 無) <input type="checkbox"/> 未定
(7) 契約種別※ ² (予定)	※2: 一般送配電事業者たる法人が分社化されている場合は記載を省略できます。
受給契約の契約種別をご選択下さい。 ※契約種別によって技術検討の結果が 変わることはありません。	【連絡先】 住所 〒 県 市 町 番地 事業者名 発電株式会社 所 属 部 担当者名 (フリガナ) () 電 話 ー ー ー ー ー ー FAX ー ー ー ー ー ー e-mail @
(8) 連絡先	【技術的事項に関する連絡先 (上記と異なる場合のみ記入)】 住所 〒 県 市 町 番地 事業者名 株式会社 所 属 グループ 担当者名 (フリガナ) () 電 話 ー ー ー ー ー ー FAX ー ー ー ー ー ー e-mail @
(9) 特記事項	・ 号柱より引き込み希望。 (希望がある場合には記入してください)

発電設備等設置者名 ●●●●●

試運転で系統連系する予定時期をご記入下さい。
(発電機の連系開始までには技術要件が整うことが
必要です)

託送供給開始（営業運転開始）の予定時期をご記入下さい。

※4：運転開始前の試運転など、送電系統への送電電力を初めて発生させる希望日を記入ください。

連系エリアの一般送配電事業者の託送供給等約款又はその他要綱等に定める契約受電電力に対する標準電圧を参考に、ご希望の受電電圧をご記載下さい。接続検討の結果、近傍の送配電設備の状況等により、希望受電電圧と異なる電圧でご回答することもあります。この場合は、予め推奨する連系電圧が最適であることを説明いたします。

発電設備のアクセス線の予備電線路の希望有無をご記入下さい。予備電線路がない場合、アクセス線の作業停止や事故停止等に伴って、運用上の制約が発生します。
※無の場合は、以下項目の記載は省略可。

※5：接続検討の結果、希望受電電圧以外となる場合もございます。

該当する電源種別を選択してください。

※6：発電機定格出力1,000kWを超えるもの。 ※7：発電機定格出力1,000kW以下のもの。

※8：バイオマスに該当する廃棄物のみを燃焼するものを含みます。

パワーコンディショナ単位で、太陽光パネルと
パワーコンディショナの定格出力のいずれか
小さい方を合算した値を記載して下さい。
(可能最大出力)。

※9：ガスタービン等、外気温により発電出力が変化する場合には、各温度における発電出力を照会すること。

受電地点における受電電力（系統への送電電力）の最大値、最小値を記載してください。最小値は、停止時の系統からの吸い込み電力をマイナス表記します。

最大：発電機最大出力（3項の数値）

— 自家消費最大電力（6項の数値）

最小： — 自家消費最大電力（6項の数値）

※10：ガスタービン等、外気温により発電出力が変化する場合には、各温度における受電電

※11：連系地点において、受電電力がない（連系地点からの需要供給のみ）場合は、0を記入してください

発電した電力のうち、自家消費する電力（所内電力を含む）の最大値（最小値）とその負荷の力率を記載してください。力率をご不明な場合「不明」と記載。

※12：発電の有無に拘わらず必要となる負荷設備の容量を記入ください。

適用有り※^{1 3}

選択してください。

※13：適用有りの場合は、固定価格買取制度の適用の条件にて検討

「電源線範囲外の系統増強等を含めた検討」の場合、最大受電電力を受電するために必要であれば、電源線範囲外の上位系統の増強等を含めて検討します。

平成 年 月 日

主要設備仕様（回転機）

太陽光は不要

発電設備設置者名

号発電機

（ 既設 ・ 新設 ・ 増設 ）

1. 一般

（1）原動機の種類（内燃機関，風力など）	
（2）発電機の種類（同期発電機，誘導発電機）	
（3）発電機台数	台
（4）運転可能周波数	～
（5）自動電圧調整装置（AVR）の有無	有 ・ 無
（6）自動電圧調整装置（AVR）の定数（整定値）	

2. 昇圧用変圧器

（1）定格容量		kVA
（2）定格 1 次電圧 / 2 次電圧		kV / kV
（3）タップ切替器仕様	タップ数	
	電圧調整範囲	[kV]
（4）%インピーダンス（変圧器定格容量ベース）		%

3. 交流発電機

共通事項	容 量		kVA
	定格電圧		V
	定格出力		kW
	力率（定格）	[%]	力率（運転可能範囲） [%]
同期発電機	（a） X_d （同期リアクタンス）		%
	（b） X_d' （過渡リアクタンス）		%
	（c） X_d'' （初期過渡リアクタンス）		%
	（d） T_{do}' （開路時定数）		sec
	（e） T_{do}'' （開路時定数）		sec
	（f）慣性定数		sec
	制動巻線	有 ・ 無	
誘導発電機	（g） x （拘束リアクタンス）		[%]
	限流リアクトル	有 ・ 無	限流リアクトル容量

※ 1. （a），（b），（c）または，（g）については必ずご記入願います。

平成〇〇年〇〇月〇〇日

主要設備仕様 (直流発電設備等)

発電者名

●●●●

1～4

号発電機

(既設 ・ 新設 ・ 増設)

1. 一般

(1) 原動機の種類 (内燃機関、風力・太陽光など)	太陽光発電
(2) 発電機台数 (PCSまたは逆変換装置の台数)	4
(3) 運転可能周波数	48.5 ～ 52.5
(4) 自動電圧調整装置 (AVR) の有無	<u>有</u> ・
(5) 自動電圧調整装置 (AVR) の定数 (整定値)	220V (214V～230V)

発電する際の周波数をご記載ください。

自動電圧調整装置 (AVR) の有無を記載してください。
「有」の場合には、整定値、整定可能範囲、刻みを記載してください。

2. 昇圧用変圧器

(1) 定格容量	2,100 kVA
(2) 定格 1 次電圧 / 2 次電圧	200 V / 6.6 kV
(3) タップ切替器仕様	タップ数 5
	電圧調整範囲 F6.75-R6.6-F6.45-F6.3-F6.15
(4) %インピーダンス (変圧器定格容量ベース)	5.0 %

昇圧用変圧器の定格容量、定格電圧、タップ数、各タップ電圧%インピーダンス (定格容量ベース) で記載してください。
※メーカーのカタログ等を参照してください。

3. 直流発電機

直流発電装置		逆変換装置 (インバータ)	
直流最大出力	2,000 kW	電気方式	三相3線式
最高使用電圧	400 V	定格電圧	200 (-10～+12%) V
通電電流制限値	390 A	定格出力	500 kW
その他特記事項 直流発電機の最大出力を記載してください。 太陽光発電の場合、各号機毎のパネルの総出力を記入してください。		力率 (定格)	85%以上 (出力1/8～定格時) %
		力率 (運転可能範囲)	遅れ 85% ～ 進み 85%
		主回路方式	自励式 (<u>電圧式</u>) ・ 電流型
		他励式	
インバータの出力制御方式、 ならびに出力制御する際の最大抑制率を記入してください。		出力制御方式	電圧制御方式 ・ <u>電流制御方式</u>
			50 %抑制 ・ その他
		絶縁変圧器	<u>有</u> ・ 無
			(直流分検出レベル)
・直流発電設備合計	500W × 1,000枚 = 500kW (1ユニット)	最大短絡電流・遮断時間	〇〇〇 A ・ 〇〇 msec
・発電設備合計	500kW × 4ユニット = 2,000kW	FRT要件適用の有無	<u>有</u> ・ 無
発電設備合計・パネル内訳を 記入してください。		(測定データ)	高周波
			(電波障害、伝導障害) 対策
		高調波電流歪率	(総合) 5 %以下
			(各次最大) 第 5 次 3 %以下
高調波による電波障害や 伝導障害に対する対策が ある場合には記入してくだ さい。		その他	力率一定制御

逆変換装置の電気方式、
定格電圧、定格出力を記入
してください。

力率一定制御の場
合は、その他の欄へ
記載してください。

インバータの主回路方式
(転流方式を含む) を記載
してください。
(※スイッチング方式では
ございません。)

事故時運転継続 (FRT) 要
件適用の有無を記載してく
ださい。FRT要件の詳細
は、系統連系規程をご参
照ください。

平成 年 月 日

発電設備仕様（二次励磁巻線形誘導機）

発電設備設置者名

●●●●

太陽光は不要

1

号発電機

(既設 ・ 新設 ・ 増設)

1. 全般

(1) 原動機の種類（風力など）	風力
(2) 発電機台数	1 [台]

2. 交流発電機

(1) メーカー・型式		【メ-カ】	○○○○	【型式】	○○○○
(2) 電気方式		三相 3 線式 ・ 単相 3 線式 ・ 単相 2 線式			
(3) 定格容量		2,100 [kVA]			
(4) 定格出力		2,000 [kW]			
(5) 定格電圧		0.69 [kV]			
(6) 力率	定格	100 [%]	運転可能範囲	遅れ 95 [%] ～ 進み 95 [%]	
	調整範囲	力率設定範囲：遅れ 95 [%] ～ 進み 95 [%]			
		力率設定ステップ： 1.0 [%]			
(7) 定格周波数			50 [Hz]		
(9) 連続運転可能周波数			49.0 [Hz] ～ 51.0 [Hz]		
(10) 運転可能周波数 (300 秒)			47.5 [Hz] ～ 51.5 [Hz]		
(10) 系統並解列箇所			添付 様式 5 の 4 参照		
(11) 自動的に同期がとれる機能の有無			有 ・ 無		
(12) 誘導発電機諸定数 (基準容量 2,100 kVA)					
	(a) 拘束リアクタンス	(X _L)	20 [%]		
(13) 二次励磁装置種類					
(a) 主回路方式	他励式インバータ ・ その他 (自励式)				
	電圧型 ・ 電流型				
(b) 出力制御方式	電圧制御方式 ・ 電流制御方式				
	PWM ・ PAM (サイリスタ)				
(14) 事故時運転継続 (F R T) 要件適用の有無			有 ・ 無		
(15) 高調波電流歪率	総合	0.5 [%]			
	各次最大	第 17 次 0.2 [%]			

【留意事項】

- 異なる仕様の発電機がある場合は、本様式を複写し、仕様毎に記入して下さい。
- 系統安定度の検討などで、さらに詳細な資料を確認させていただく場合があります。

各数値は、メーカーへお問い合わせいただき、
記載して下さい。

平成 年 月 日

発電設備仕様（逆変換装置）

発電設備設置者名

1～4

号発電機

(既設 ・ 新設 ・ 増設)

1. 全般

(1) 原動機の種類（風力、太陽光など）	太陽光発電
(2) 台数（逆変換装置またはPCSの台数）	4 [台]

2. 逆変換装置

(1) メーカー・型式	【メーカー】 ○○○○	【型式】 ○○○○
(2) 電気方式	三相3線式 ・ 単相3線式 ・ 単相2線式	
(3) 定格容量	2,100	[kVA]
(4) 定格出力	インバータの合計出力を 記載してください	2,000 [kW]
(5) 出力変化範囲	0 [kW] ～ 2,000	[kW]
(6) 定格電圧	200	[V]
(7) 力率（定格）	95	[%]
(8) 力率（運転可能範囲）	遅れ 95 [%] ～ 進み 95 [%]	
(9) 定格周波数	50	[Hz]
(10) 連続運転可能周波数	48.5 [Hz] ～ 52.5 [Hz]	
(11) 運転可能周波数（300 秒）	47.5 [Hz] ～ 53.5 [Hz]	
(12) 自動電圧調整機能	逆変換装置の自動電圧調整機能の種類を記載してください。 力率一定制御が可能な場合は、 その他の()内に「力率一定制御」と記載してください。	進相無効電力制御機能・出力制御機能・ その他（力率一定制御）
(13) 自動同期検定機能（自励式の場合）	有 ・ 無	
(14) 系統並解列箇所	添付 様式5の4 参照	
(15) 通電電流制限値	発電機の並解列箇所の分かる 図を様式5の4に記載してください。	150 [%]
		0.1 [sec]
(16) 主回路方式	自励式（電圧形 ・ 電流形） 他励式	
(17) 出力制御方式	事故時運転継続(FRT)要件 適用の有無を記載してください。	電圧制御方式 ・ 電流制御方式 ・ その他（ ）
(18) 事故時運転継続（FRT）要件適用の有無	有 ・ 無	
(19) 高調波電流歪率	総合	0.8 [%]
	各次最大	第 13 次 0.5 [%]

逆変換装置の高調波電流歪率を記載してください。ご
不明な場合は、メーカーへお問い合わせください。
別途示す上限値を超過する場合には、再検討が必要
となる場合があります。

【留意事項】

- 異なる仕様の逆変換装置がある場合は、本様式を複写し、仕様毎に記入してください。
- 電圧変動の検討などで、さらに詳細な資料を確認させていただく場合があります。

4. 保護継電器等

連系用遮断器、その他機器の仕様について記入してください。

◇遮断器 VCBの仕様について記入してください。

◇その他機器 VT・CT・PD・ZPD・ZCTの仕様について記入して下さい。

機器名称	系	製造者	型式	定格電圧	定格電流	動作時間	備考
連系用遮断器	(V C B)	主	〇〇〇	〇〇〇	7200V 600A	12.5kA	3サイクル
その他機器	()				V A	A	サイクル
V T	主	〇〇〇	〇〇〇	6600V/110V	—	負担：50VA	
C T	主	〇〇〇	〇〇〇	300/5A 40VA	過電流強度	40	
					過電流定数	n>10	
					機械的耐電流	12.5kA 0.25sec	
P D		〇〇〇	〇〇〇	250 pF	Z P D	6600 V / 7.6 V	
Z C T	主	〇〇〇	〇〇〇	200/1.5mA			

記号	継電器名称	系	製造者	型式	相数	動作時間	備考
OCR-H (51R)	過電流	主	〇〇〇	〇〇〇	2	電流：2-2.5-3-5 時限：0.25-0.5-1 9-10-30-60s	
DGR (67GR)	地絡方向	主	〇〇〇	〇〇〇	1	電流：0.2-0.3-0 時限：0.2-0.3-0	
OVGR (64R)	地絡過電圧	1	〇〇〇	〇〇〇	1	電圧：2-2.5-3-4-5-6-7.5-10- 15-30%	時限：0.1-0.9(0.1sステップ)1-2- 4-6-10s
		2				電圧：	時限：
DSR (67S)	方向短絡	1				備考	時限：
		2				備考	
OVR (59R)	過電圧	1	〇〇〇	〇〇〇 (PCS内蔵)	3	電圧：200V～240V (2Vステップ)	時限：0.5-2.0(0.1s ステップ)
		2				電圧：	時限：
						備考	
UVR (27R)	不足電圧	1	〇〇〇	〇〇〇 (PCS内蔵)	3	電圧：160V～200V (2Vステップ)	時限：0.5-2.0(0.1s ステップ)
		2				電圧：	時限：
						備考	
OFR (95H)	周波数上昇	1	〇〇〇	〇〇〇 (PCS内蔵)	1	周波数：50.25-53.0Hz (0.25Hz 毎)	時限：0.5-2.0s (0.1sステップ)
						備考	
UFR (95L)	周波数低下	1	〇〇〇	〇〇〇 (PCS内蔵)	1	周波数：47.0-49.7Hz (0.25Hz 毎)	時限：0.5-2.0s (0.1sステップ)
		2				電圧：	時限：
						備考	
RPR ※ (67P)	逆電力	1				電力：	時限：
		2				電力：	時限：
						備考	
UPR ※ (91L)	不足電力	1					時限：
		2					時限：
単独運転検出要素 (受動：電圧位相跳躍検出)			〇〇〇	〇〇〇	1	整定値：OFF, 3, 6, 9, 12, 15°	時限：0.5 s 以内
						備考	
単独運転検出要素 (能動：無効電力変動方式)			〇〇〇	〇〇〇	1	整定値：OFF, ON 検出周波数±5	時限：0.5s～1.0 s
						備考	

※逆潮流なしの場合

付加機能に関する事項

・電圧上昇抑制機能、発電機並列時・脱落時の電圧変動抑制機能、自動負荷遮断装置、自動同期検出機能の有無を記入して下さい。

・電圧上昇抑制機能	無	・有
・発電機並列時・脱落時の電圧変動抑制機能	無	・有
・自動負荷遮断装置	無	・有
・自動同期検出機能	無	・有
電 圧	5 %	周波数差 0.1 Hz
位相差	±1 度	前進時間 0.05 s
・その他		

負荷設備および受電設備

1. 負荷設備

余剰電力売電の場合は、自家消費電力の数値を含めて記入して下さい。

(1) 合計容量	40 kW
(2) 総合負荷力率	98 %

2. 受電用変圧器

受電用変圧器(昇圧用変圧器)について
定格容量、電圧、タップ切替仕様、%Z、台数を
記入してください。

(1) 定格容量	2,100 kVA
(2) 定格電圧	690 V / 6.6 kV
(3) タップ切換器仕様	タップ数 5
	電圧 F6.75-R6.6-F6.45-F6.3-F6.15 k
(4) %インピーダンス (変圧器定格容量ベース)	5 %
(5) 台数	1 台

3. 調相設備※1

(1) 種類	なし
(2) 電圧別容量	高圧 低圧
(3) 合計容量	
(4) 自動力率制御装置の有無	有 ・ 無

※1. 「総合負荷力率」に調相設備を含む場合は不要

4. 高調波発生機器 (有 ・ 無) 高調波対策 (有 ・ 無)

※高調波対策有の場合は資料を添付してください。

高調波発生機器等価容量

機器名称	定格容量 【kVA】	台数	合計容量 【kVA】	換算係数	等価容量 【kVA】
等価容量合計					

5. 電圧フリッカ発生源 (有 ・ 無) 電圧フリッカ対策 (有 ・ 無)

対策設備の概要

※電圧フリッカ対策有の場合は資料を添付してください。

6. 特記事項

※用紙の大きさは、日本工業規格 A 3 または A 4 サイズとしてください。

平成 ●● 年 ●● 月 ●● 日

発電設備設置者名 ●●●●

発 電 機 制 御 系 ブ ロ ッ ク 図
－ 励 磁 系 －

太陽光は不要

※系統安定度の確認が必要な場合に、ご提出をお願いする場合があります。

※用紙の大きさは、日本工業規格 A 3 または A 4 サイズとしてくだ

平成 ●● 年 ●● 月 ●● 日

発電設備設置者名 ●●●●●●

発 電 機 制 御 系 ブ ロ ッ ク 図
ー ガ バ ナ 系 ー

太陽光は不要

※系統安定度の確認が必要な場合に、ご提出をお願いする場合があります。

■接続検討時に記載いただきたい項目

受電電力(電力系統に流入する電力)の運転パターンを記載してください。
※時間毎で想定しうる最大値を設定してください。
※時間毎の受電電力が不明の場合は、様式2「4. 受電地点における受電電力(同時最大受電電力)」により検討させていただきます。

※用紙の大きさは、日本工業規格A3サイズとしてください。

平成●●年●●月●●日
発電設備設置者名●●●●

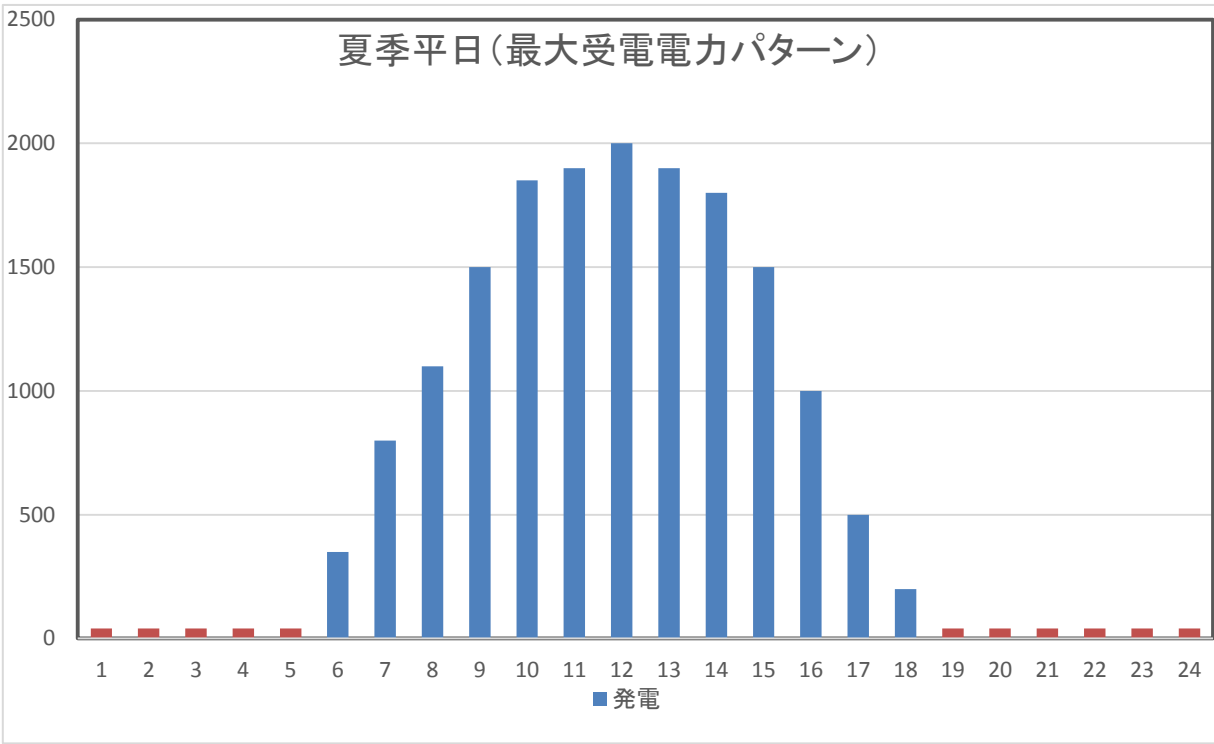
設 備 運 用 方 法

ー 発電機運転パターン, 受電地点における受電電力パターン ー

(受電地点における最大受電電力が発生する日(※1), 受電地点における最小受電電力が発生する日)

季節別のパターンの提出を求
める場合もあります。

※1 最大受電電力発生日が、夏期ピーク時(気温33℃, 平日)と異なる場合は、夏期ピーク時も記載下さい。
系統状況によっては、その他の日(季節毎)のパターンを提示していただく場合があります。



時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
発電	0	0	0	0	0	350	800	1100	1500	1850	1900	2000	1900	1800	1500	1000	500	200						
買電	40	40	40	40	40														40	40	40	40	40	40

■接続検討時に記載いただきたい項目

発電機、昇圧用変圧器、連系用変圧器等の単線図を添付してください。
系統解列箇所を明示してください。

※用紙の大きさは、日本工業規格A3サイズとしてください。

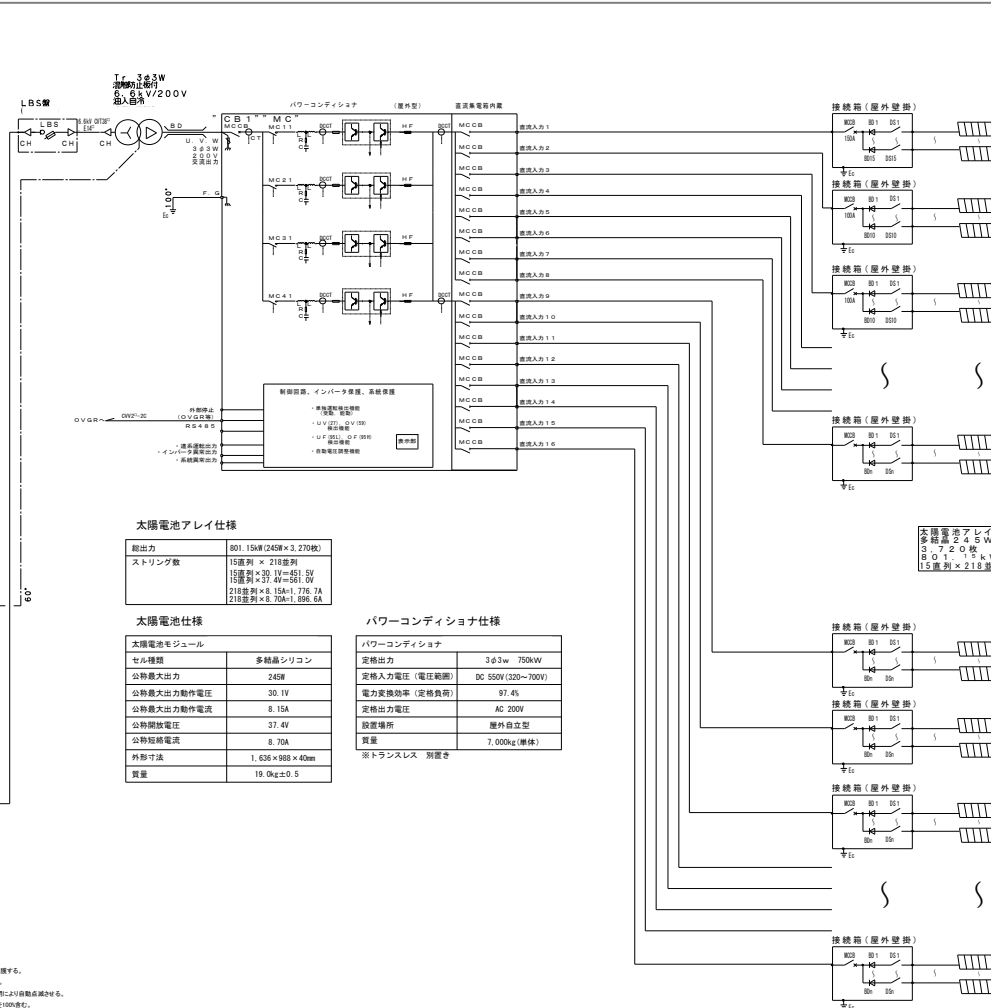
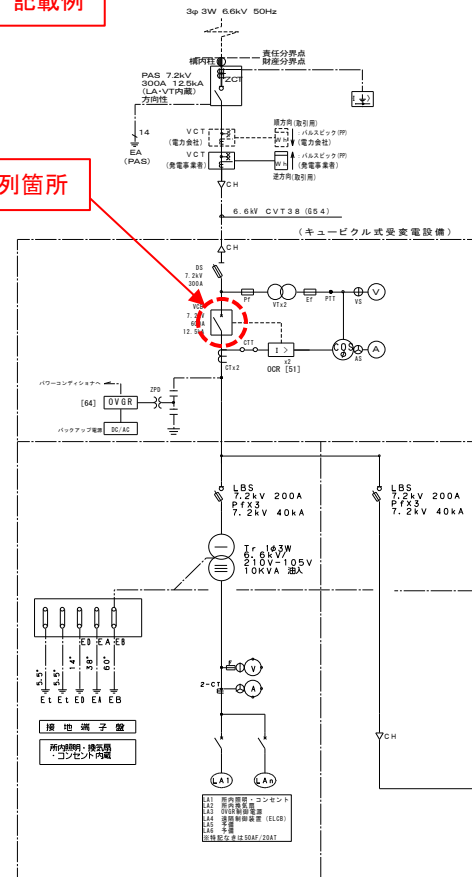
平成 年 月 日

発電設備設置者名

単線結線図

記載例

系統解列箇所



太陽電池アレイ仕様

総出力	801.15kW (245W × 3,270枚)
ストリング数	15直列 × 218並列 15直列 × 30.1V = 451.5V 15直列 × 37.4V = 561.0V 218並列 × 3.7A = 806.6A 218並列 × 3.7A = 806.6A

太陽電池仕様

太陽電池モジュール	
セル種類	多結晶シリコン
公称最大出力	245W
公称最大出力動作電圧	30.1V
公称最大出力動作電流	8.15A
公称開放電圧	37.4V
公称短絡電流	8.70A
外形寸法	1,636 × 988 × 40mm
質量	19.0kg ± 0.5

パワーコンディショナ仕様

パワーコンディショナ	
定格出力	3φ3w 750kW
定格入力電圧 (電圧範囲)	DC 550V (220~700V)
電力変換効率 (定格負荷)	97.4%
定格出力電圧	AC 200V
設置場所	屋外自立型
質量	7,000kg (本体)

※トランスレス 別置き

凡 例

記 号	名 称	備 考	記 号	名 称	備 考
VCT	取付用変圧器		VT	計測用変圧器	
Wh	電力計		CT	計測用変圧器	
CH	ケーブルヘッド		MCCB	遮断器	
DS	遮断器		ELCB	漏電遮断器	
VDR	高圧避雷器		ELCB	漏電遮断器	
LBS	高圧負荷開閉器		ZPD	高圧電圧検出装置	
Tr	変圧器 (送受)		DGR	方向地絡検出装置	
PH	電力ヒューズ		OCR	過電流検出装置	
ZCT	電流検出装置		UVR	不均衡電圧検出装置	
PR	パルス検出装置		ELCB	漏電遮断器	
LA	接地線				

特記仕様

- キュービクルは屋外型 標準仕様とする。
- キュービクルの形状及び寸法は、参考とする。
- 変圧器は三相交流電源に接続し、三相平衡で運転する。
- キュービクル内には高圧用遮断器を設置し、接地線により自動遮断する。
- キュービクル内には高圧用遮断器を設置し、接地線により自動遮断する。
- メカニカルブレーキは自動ブレーキを100%使用。
- メカニカルブレーキは自動ブレーキを100%使用。
- 変圧器は三相交流電源に接続し、三相平衡で運転する。

注 記

- 必要箇所は○印でマークを付すこと。
- ケーブル敷設方法は、現場状況によりケーブル敷設方法に付すこと。

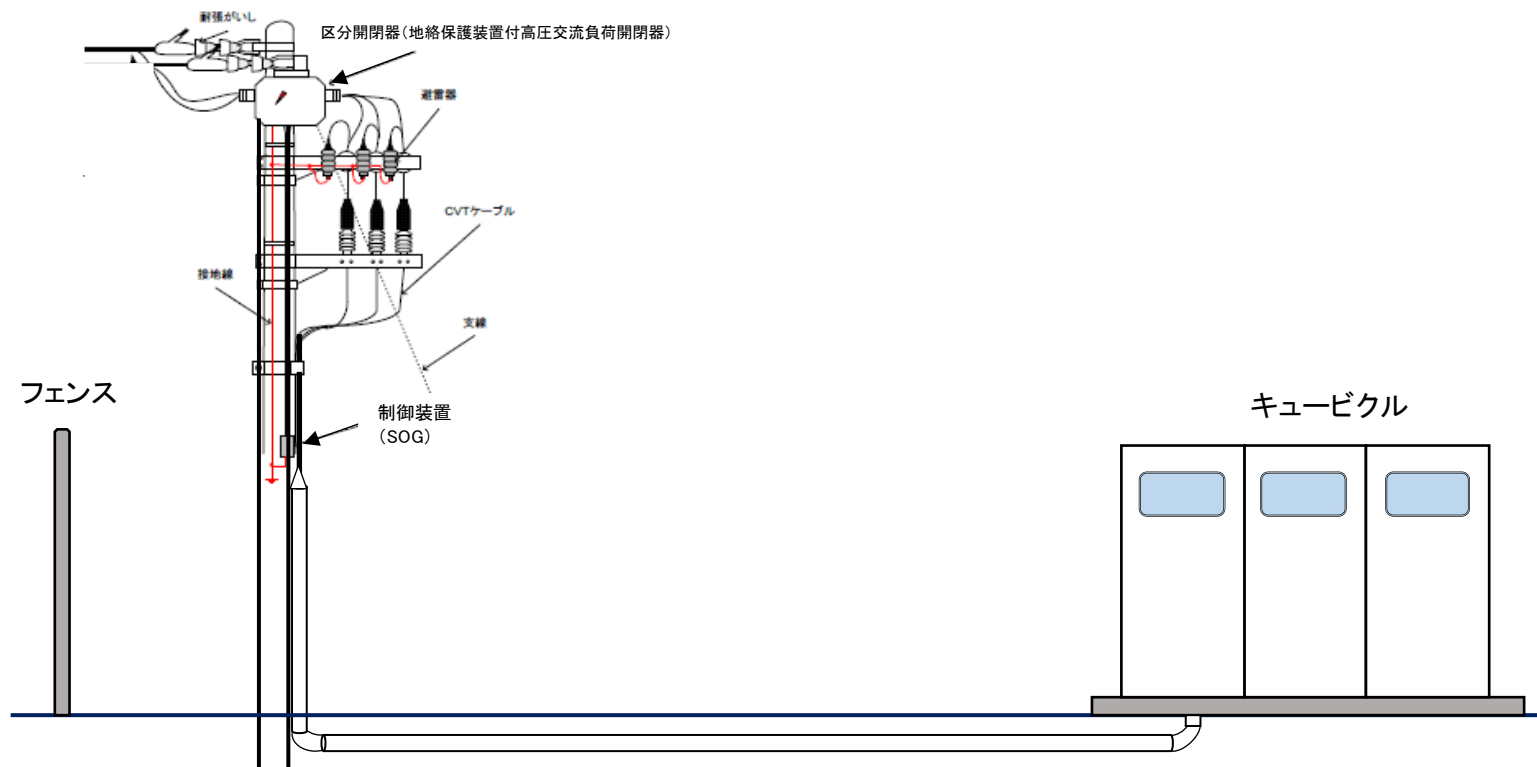
計量器、VCT、通信端末、受変電設備等の設置場所が判る図面、
装柱図、キュービクル等の図面を記載して下さい。
(図中に寸法記載も可)

※用紙の大きさは、日本工業規格A3サイズとしてください。

平成 ●● 年 ●● 月 ●● 日

発電設備設置者名 ●●●●

設 備 配 置 関 連
ー 主要設備レイアウト図 ー



※計量器・VCT・通信端末ならびに受電設備の設置場所がわかるよう記載下さい。
※計量器・通信端末設備の設置仕様 (壁掛け・自立盤) が決まっていれば、記載下さい。
※通信ケーブルの引込ルートが指定があればわかるよう記載下さい。

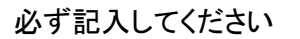
必ず記入してください

縮 尺

1 / ○○○

貴社構内引込柱、受電設備、太陽光パネルの設置場所をご記入ください。
※電力引込柱の位置を把握されている場合でご希望がある場合には記入してください。(図中に寸法記載も可)

— 敷 地 平 面 図 —



1

○○○

周辺地図上に、設備・縮尺をご記入ください。

※用紙の大きさは、日本工業規格A3サイズとしてください。

平成 年 月 日

発電設備設置者名

発電場所周辺地図



必ず記入してください

縮 尺

1 / 〇〇〇

発電設備設置者名 ●●●●

項目	年月	平成27年									
	4月	5月	6月	7月	8月						
アクセス設備の運用開始希望日					■						
発電設備等の連系開始希望日 (試運転)					■						
発電設備等の連系開始希望日 (営業運転)					■						
基礎工事	■										
架台工事		■									
配管・配線工事		■	■	■							
モジュール取付		■	■								
機器設置			■	■	■						
建柱工事				■							
外構工事				■	■						
各種試験					■						